

令和3年（2021）

■ 8月6日（金）（つづき）

② 第2区（南側の調査区）の調査

調査面第3層から5層にかけての調査を実施しました。縄文時代後期末葉安行2式から後期後葉安行1式にかけての堆積土層です。

5層は後期後葉安行1式を主体とし、調査区西端まで分布していました。本層には後期中葉加曽利B2式が混在します（写真1）。



写真1 第5層の調査

令和3年（2021）

そして6～8層も、引き続き安行1式を主体としていますが、これら一連の層は、調査区西端までは堆積せず、斜面中腹までで堆積が終わります（写真2）。なお調査区西端は、後期中葉加曽利B2式を主体とする土層が堆積しています。



写真2 第6層の調査

令和3年（2021）

8層は炭化物を多く含み、黒色を呈する、特徴的な土層でした（写真3）。本層の土壌を水洗したところ、炭化物以外にも焼けた獣骨の破片が多く含まれていました。本層も引き続き安行1式を主体としています



写真3 第8層の調査

令和3年（2021）



写真4 第8層から出土した安行1式土器

調査は10層へと進んでいます。10層は、昨年度までの調査で検出していた斜面貝層の直上に堆積する層です。本層は後期中葉加曾利B3式を主体としており、生骨（焼かれていない骨）を多量に含んでいます（写真5・6）。10層の次は、いよいよ斜面貝層の調査です。

令和3年（2021）



写真5 第10層の調査



写真6 第10層の生骨